



設計意図

施主より、「木造で末永く後世に残る建物としたい」との事から当本堂は現行建築基準法を十分考慮した上で諏訪に伝わる社寺建築の技法である大隅流の木割と木組を用いた伝統工法を用いた設計とし、施工することで職方にも代々受け継がれてきた伝統工法の技術を伝承できる様整理した。

向拝には「尾掛松」の伝承にちなんだ親子龍をはじめ、長寿と繁栄の象徴である鶴と亀、人生の登竜門を表す滝を登る鯉などの数々の彫刻を施し、本堂内にも外陣天井周辺に十二支を、欄間には将来的に『二十五菩薩来迎図』が備え付る事の出来る構想とし、遣信徒が永きにわたり関わり、その経過、由縁が語り種となっていけるよう配慮。

景観上では、本堂として威厳のある物とするため、庫裡を経由した経路にスロープ配することで、古来からの容姿を保つ基壇、高欄を設け参道からの床高1700mmとしながらバリアフリーへ対応。エコを考慮し部分使用可能な電気式床暖房を採用。



外観（正面）



外観（側面）



内観（外陣-内陣）



向拝

